

⑥ 知的障害者の医学

課題： 知的障害の出生前の診断と発生予防について、倫理的な視点も含めて包括的に述べなさい。

知的障害の約8割が原因があきらかではないとされている。残りの2割は、染色体の異常などの先天性の知的障害や出産時の酸素不足やトラブル、乳幼児期の高熱などが原因とされている。おおまかに以下の3つに分けられる。

1. 生理的要因

体には特別の異常が見られないが、脳の発達障害によって知能が低い水準に偏ったと考えられるもの

2. 病理的要因

脳には何らかの病気あるいは損傷があって、知能の発達が妨げられるもの、例えば乳幼児期の脳外傷、感染症、出血などがあり、出産の際の障害の重要なものである。胎児の時期に母親が風疹・梅毒などに感染することや、有機水銀など体外から入った物質の中毒によるものもある。染色体異常による知的障害にもいろいろあり、ダウン症はその代表的な例である。

3. 心理・社会的要因

知的発達に著しく不適応な環境におかれている場合であり、児童虐待はその典型例である。

以上の要因からすると、障害を持った子どもを産む可能性は誰にでもある。考えられる要因には、妊娠以前または妊娠中から予防できるものもある。妊娠前においては、乳幼児期の予防接種により、妊娠期の風疹感染を予防すること

ができる。また、思春期より妊娠・出産に関する正しい知識を学び、安全な妊娠・出産・育児ができるよう支援していくことも予防の一つである。

妊娠中または妊娠が疑われる時期においては、不用意に薬剤の使用を避けることが必要である。また人込みを避けるなどして感染症に罹患しないよう注意することも予防の一つである。最近は様々な理由から妊婦検診を受けずに出産を迎えるケースも多く、異常な早期発見や、安全な出産を抑えるために、妊婦健診の重要性を訴えいくことが必要である。

出生後においては、新生児の異常に早期に対応することで、脳の損傷や後遺症を予防することができる。また、近年は児童虐待に至るケースも多く、家族だけではなく地域全体で子育て支援ができる体制も必要である。産んだ子どもに対しての責任とともに、時には助けて欲しいと言える勇気・人間関係をもって置くことも必要だと考える。以上のように、妊産婦という理由だけではなく、人として心身共に健康であるために生活環境を整えることが、予防の第一歩だと考える。最近、出生前診断が話題になっているが、本当に予防と考えていいのだろうか。出生前診断とは、障害あるかないかを出生前に明らかにし、それに対処する手段を提供することを目的として、生まれる前に胎児の状態を診断することである。その方法には、超音波診断、羊水穿刺、絨毛採

取、臍帯血採取、母体の血液中の生化学検査、母体血に微量に混入する胎児細胞の解析がある。一般的に出生前診断を受ける目的は、①胎児期に治療を行なう、②分娩方法を決めたり出産後のケアの準備をする、③妊娠を継続するか否かに関する情報をカップルに提供するなどされている。

着床前診断とは、不妊症の夫婦のみに行われる体外受精で、子宮に戻す前の受精卵の一つの細胞から核を取り出し、遺伝子診断を行なうものである。検査で異常がなければ子宮に戻し、異常があればその受精卵を破棄する。流産率が減る、受精卵に異常があり、子宮に戻さなければ中絶を回避でき、母体への負担が少なくてすむというメリットがある。しかし、受精卵の段階で命の選別をしているとも考えられ、決して積極的に行われるべきものではないと考える。

出生前診断については、障害をもった夫婦の子どもは健康であって欲しいという願い、障害児をもつ夫婦の二人目は健康な子どもであって欲しいという願いから、検査を行なう場合が多く、障害のある子どもを育てることは想像以上に

大変なことであるという意味では、絶対にダメだと言っはいけないように思う。では、妊娠後に異常があるとわかった時にはどうするのか。望んで妊娠したであろう胎児には異常があるから中絶するとなれば、望まない妊娠を中絶することと変わらないのではないか。障害の有無に関わらず、一つの命の重みは同じである。障害の子を育てるのは大変だから産まないというのなら妊娠を避けるべきであり、妊娠・出産はそれだけ責任重大であることを特に妊娠可能年齢期には認識しておく必要がある。また、異常発覚後の中絶は、障害者の排除にもつながるのではないか。胎児期に異常がわかることで、障害があっても産んで育てる心の準備と生活面での準備ができるという利点もあり、完全に否定するものではないが、安易に行われるべき検査ではないと考える。障害があっても育てやすく、暮らしやすい社会になることで、安心して妊娠・出産を迎えられるのではないだろうか。

講評：

課題の要求するところをよく理解し、たいへん上手く纏めています。Excellent!

ここで問題としている倫理的問題に絶対的な正解はないのでしょうか。個々の例に対しよく考える事こそが大事だと思います。人が下した「苦汁」の選択を軽々と非難することは避けるべきだと思います。